

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	総務文教常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 井上
日 時	令和元年7月25日(木曜日)	開 議 閉 議	午後 1時30分 午後 3時50分
出席委員	◎福井 ○木村 三上 浅田 山本 松山 木曾 石野		
執行機関 出席者	田中生涯学習部長、福田市民力推進課長、真里谷市民力推進課地球環境子ども村係長 谷図書館長、野澤図書館主幹 吉田会計管理室長、野々村財産管理課長、田中財産管理課副課長		
事務局	山内事務局長、井上事務局次長		
傍聴	可	市民 0名 報道関係者 1名	議員 2名(竹田、三宅)

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

1 開議

2 事務局日程説明

1 3 : 3 2

3 案件

(1) 行政報告

① 亀岡市交流会館クライミングウォール施設設置に係るプロポーザルの実施について(生涯学習部)

(生涯学習部入室)

生涯学習部長 あいさつ
市民力推進課長 説明

1 3 : 4 0

《質疑》

<木曾委員>

この説明で、市民への説明責任を果たせたと理解していいのか。

<市民力推進課長>

現時点で考えている内容であるが、プロポーザルを行う中で精度を上げて整えていきたいと考えており、業者が決まれば確認していきたい。

<木曾委員>

プロポーザルについては決まったのか。

<市民力推進課長>

要綱、仕様を定め、これを基に公募を行い提案してもらおう。安全確認を含めて市として万全を期しているが、他の施設も参考に検証したいと思っている。

<木曾委員>

プロポーザルは、業者が提案するものを100%任せることになるのか。

<市民力推進課長>

先ほど説明した安全対策などの内容を仕様として、市の考えを持っている。それを基に、交流会館で最適なしつらえを提案してもらおう。

<木曾委員長>

プロポーザルにより決定した後、どういうしつらえをするのかということについて、業者に来てもらって説明を受けることは可能か。

<市民力推進課長>

可能と考える。

<三上委員>

山岳連盟との協議はできているのか。

<市民力推進課>

山岳連盟と協議し、連携を図っている。

<石野委員>

利用者説明会は、いつ、誰が行っても受けられるのか。

<市民力推進課長>

夜間にも実施したい。週2回程度は実施したいと考えている。来年、2月頃には広報していきたい。

<三上委員>

学校から来る場合はどのようなになるのか。

<市民力推進課長>

団体の場合は、指導員の配置をお願いすることを考えている。学校のクラス単位で来られる場合、担任教員が講習を受けていなくても、指導員を配置することにより担保できると考えている。

<福井委員長>

クライミングウォール施設を使うための条例改正案件は、今後、出てくるのか。それがあれば、またそこで話ができる。

<市民力推進課長>

使用料については検討中であるが、いずれは条例改正を提案していきたい。

<木曾委員>

プロポーザルというのは、提案された内容を行政が評価し、委託するものである。入札を行わず随意契約になる。金額に関係なく、良い提案に決めるということか。

<生涯学習部長>

プロポーザルは、提案型が基本だが、予算も無視はしない。提案を受け、安全性なども加味して最終的な随意契約に進んでいく。

<木曾委員>

本来は競争入札を行い、価格、品質、内容を精査し行政が判断していくのが望ましいと思う。気に入った業者を入れたいという思いで、随意契約にするためにプロポーザルにしたのではないか。それならそれでいいのだが、行政の責任は重くなると思うので、安全面、運営面について明確に説明してほしい。

<生涯学習部長>

指名競争入札が望ましいのだが、近辺にこの業務に携わっている業者は多くないことからプロポーザルにした。この業者にということは一切ない。公募の業者の中から決めていく。

<三上委員>

市でこのようにプロポーザルでしているところは他にもあるのか。このスケジュー

ルでは短いように思う。

<市民力推進課長>

公告については、ホームページに掲載して進めていく。それによりたくさん手が挙がってくることになる。交流会館の規模であれば、この日数でいけると考えている。

<福井委員長>

京都府がスタジアムにつくる施設は、専門業者が工事を行うことになると思うのだが、内容は参考にしているのか。

<生涯学習部長>

図面を入手して確認した。交流会館とは比べ物にならないような、大規模の、西日本一の室内競技場である。京都府の職員が市役所3階に来られているので、状況は確認させてもらっている。

<福井委員長>

プロポーザルの結果も知らせてほしい。有料無料のことも含めて、最終的なお知らせをいただきたい。

(質疑終了)

(生涯学習部退室)

(休憩)

14:00~14:05

② 亀岡市立図書館条例の一部改正について (教育部)

(教育部入室)

図書館長 説明

14:15

《質疑》

<木曾委員>

この駐車場は、総合福祉センターの利用者は使わないのか。

<図書館長>

現行の駐車場も、総合福祉センターにも割引の機械があり、総合福祉センター利用者は総合福祉センターで割引措置をして利用されている。図書館の開館時間は午後6時まで、金曜日のみ午後8時までであるが、総合福祉センターは午後10時まで開館している。夜間については、駐車場の呼び出しトラブルを含めて、総合福祉センターに対応いただいている。新しい駐車場は、総合福祉センターの隣になるので、ちょっとしたトラブルは総合福祉センターで対応いただくよう申し入れており、2館で協力して当たっていきたい。条例では、減免は図書館だけを謳っているが、規則の中で、総合福祉センターについては同じ条件で減免するという規定があるので、それに基づいて近隣施設ということで同じ扱いをしていく。協力し合いながらやっていく。

<木曾委員>

図書館の利用者、総合福祉センターの利用者、いずれにも、そういうことを告知していくということか。

<図書館長>

図書館の駐車場が増えること、今までどおり総合福祉センター利用者も使っていただけのことを広報していく。

<三上委員>

今でさえ職員が足りていないように感じるのに、駐車場が増えることによりトラブル対応なども増えてくることになるが大丈夫か。

<図書館長>

確かに仕事量は増える。市立病院であれば施設管理業者が行っている業務を、図書館では職員が全てしているので、大変な面はあるが、職員連携の中で上手くいくようにやっていく。

<三上委員>

平常業務から、京都府では当たり前の学校司書が亀岡には置いていないことにより、図書館から司書を派遣するなど、かなりかぶっていると思う。駐車場ができたから中央館に来てほしいというのは、もちろんそうだが、たとえば馬堀分館であれば、その近くに住んでいるからそこに行きたい。夕方や休みの日は人が殺到している。分館にはそれなりの役割があるので、中央館に駐車場ができたから、皆、中央館に来てくれと言ってもなかなかそうはいかない。減るようにも思えない。トータルで人員を増やす要望をした方がいいと思う。

(質疑終了)

(教育部退室)

(休憩)

14:25～14:28

(2) 意見交換

① 亀岡市公共施設等総合管理計画に係る会計管理室との意見交換について

(会計管理室入室)

<福井委員長>

委員会テーマである行政のみえる化の検討を進めていくにあたり、今日は、公共施設等総合管理計画について、会計管理室との意見交換を行いたい。本委員会では、亀岡市の現状、将来展望を把握した上で発信をしていきたいと思っている。行政報告ではなく意見交換という趣旨でお話しを願う。

<会計管理室長>

総務文教常任委員会では、公共施設の再配置をテーマに周南市へ行政視察に行かれたと伺っているが、亀岡市でも保有する公共施設の在り方について検討を重ね、平成28年9月に亀岡市公共施設等総合管理計画を策定した。公共施設保有量や配置の最適化を計画的に推進していくための基本的な考え方を明確化したものである。将来の財政負担軽減のため、2016年から2045年までの30年間で、延べ床面積を10.7%削減することを目標として掲げているが、住民サービスの質は損なわれることの無いようまちづくりを進めていく。庁内の推進体制として、市長を本部長に公共施設マネジメント推進本部を設置し計画の推進に努めている。策定から3年が経過する。その間の動き等を課長から説明させていただく。

財産管理課長 説明

14:32～14:43

《意見交換》

<松山委員>

- 公共施設マネジメント推進本部は、どれくらいの頻度で情報共有を行っているのか。
- <財産管理課長>
推進本部は、定期的に部長会等で情報共有を行っている。昨年度の実績は、手持ち資料がないのであとで報告する。
- <松山委員>
延床面積を減らすことと歳入とが比例するわけではないと思っている。計画は30年先を見越して作られているが、人口はどんどん減っている。老朽化や稼働率などあらゆる面から、各施設が子や孫の代まで必要か必要でないかを徹底的に見直すということも、推進本部の中でやってほしい。
- <財産管理課長>
稼働率は定期的に集約し、推進本部に情報提供している。最終的な判断は所管課で行うことになるが、総合的には政策判断になると思っている。
- <松山委員>
総合的な判断の基準は。
- <財産管理課長>
利用者が地域に限定していることもあり、一概に稼働率の数値のみで判断することは難しいと考えている。
- <松山委員>
稼働率のみで残す残さないを思っているわけではない。施設を見直す総合的な判断をする基準を確認したい。
- <財産管理課長>
それぞれの建物により状況が異なるので、ケースバイケースになると考える。
- <松山委員>
ケースごとに推進本部、検討部会で深く検討し判断していくということであれば、推進本部の中だけではなく、他の部署にもリンクしてくるので、横断的に情報を共有し、透明化して判断しているということか。
- <財産管理課長>
施設所管課、関係課で情報を共有した上で、推進本部に諮っている。
- <三上委員>
推進本部の司会や運営、レジュメの作成などは、会計管理室が所管しているのか。
- <財産管理課長>
当課が行っている。
- <三上委員>
総合管理計画の推進においては、財政も厳しく人口も減ってくる状況にあるが、基本は市民福祉の増進ということで貫かれているか。
- <財産管理課長>
市民サービスの低下を招かないことを基本としている。
- <三上委員>
減らすためにやっているところもあるが、市民あつての市である。アンケートも実施したとのことで、ここに書かれていることは総論だと思うが、総論を市民にいか理解してもらうかという意味で、見える化が大事だと思う。市民意識をどうつかんでいるか。
- <財産管理課長>
各施設のニーズは、各施設の管理者が把握している。
- <三上委員>

施設をどう最適化していくかという総論を、市民に理解してもらうことが鍵だと思う。そこをしっかりとしないと、計画が出てきた時、市民は自分の地域の施設はどうかということしか見ない。

<財産管理課長>

全ての市民に同じような理解をしていただくことが必要だと思う。啓発に努めていきたい。

<木曾委員>

公共施設の総合管理を行うには、市民理解が必要ということだが、具体的な取り組みや成果の実例はあるか。

<財産管理課長>

財産管理課が中心になってやったことはない。

<木曾委員>

削減実績の中では、亀岡会館、中央公民館などが大きい。これは公共施設総合管理の中で行ったものではなく、施設ごとの耐震などの事情で行ったものである。このままでいくと、削減目標の10.7%達成は難しいのではないか。築50年以上の建物がどんどん増えていくが、次の手をどう打つかの妙案がないのが現状ではないか。

<財産管理課長>

厳しい状況にある。学校では特認校制度を導入しているが、まだ始まったばかりであり、一定期間が経過すれば、方向性も見えてくると考えている。

<木曾委員>

施設存続要望がある中、老朽化や人口減少を見越した施設の整理も必要であり、難しい。行政視察に行った周南市でも、一度作った施設管理計画に批判が集まり、白紙に戻している。その中で学んだことは、市民理解が大事ということである。議員も地域の要望を色々と聞く中で、公共施設の廃止を言うのは難しい。何かのきっかけがあれば、それを基にして言える。周南市では、マンガを活用して啓発している。わかりやすいマネジメントが大事だということ、周南市から教えていただいた。市民手作りでマンガを作り、それをを用いて、事あるごとに財政状況と今後の施設管理の在り方について、ディスカッションできる場を増やしていく。各課もそれによって横の連携を深める。そういうことが大事だと思う。

<財産管理課長>

周南市のマンガは、ホームページからダウンロードすることができたので見せていただいた。とてもわかりやすく描かれている。周南市は、平成の大合併という特殊事情もあり、同様の施設が複数あり再配置を進めたということがよくわかる。地域ごとに市民と一緒にやっていくところも、上手く表現されていると思った。

<木曾委員>

市民にわかりやすく、財政状況など周南市の状況を的確に捉えてマンガにされている。亀岡市も何かをとらまえてやっていかないと計画倒れになってしまう。本委員会の所管では、文化センター6館を3館体制にしていくという方針の中で、人権福祉センターを作った経過がある。方針が出て、主管課で取り組みが進まないこともある。東部市民プールと馬路市民プールはかなり老朽化している。地域とコミュニケーションをとり、市として今後の方向性を考えていく必要がある。私も関わっている東部児童館の地元の話し合いでは、老朽化し雨漏りもひどいことから取り壊しの方向で提言もしようということになっている。東部文化センターの中に児童館の機能を持たせるように再配置していくことも一つの方法だ。マイナスだけではな

く、プラスの形で、機能がそこに含まれていくような形にすればいいのではないか。

<財産管理課長>

地元から提案いただければ、庁内でも調整し、最善の方法を考えていきたい。

<石野委員>

合戦野住宅は、周りが住宅開発されポツンと残っているが、有効活用できないのか。

<財産管理課長>

1軒でも住んでおられれば除却できない。他への転居も賃料が上がるということで進まない状況である。

<福井委員長>

北海道夕張市は、11万人あった人口が、炭鉱がなくなり9千人になった。50棟ほどあった住宅も今は二つになっている。そういう方法もあるということだが、なかなか難しい。

<三上委員>

出前講座ををするとしても、3ページの資料を市民に示したら、亀岡会館も中央公民館も厚生会館もなくなって困っているのに、「離れ」にのうみのような旅行者の宿泊施設を建てるとはどうなんだと言われかねない。何を市民に伝えていくかが今問われている。市民サービスを向上させることは大前提であるが、あとは市民の合意、市民の参画だと思う。市民が検討のテーブルに着くこと、市民から多くの意見をもらうことが大事である。市民の声を計画に反映していくことが、計画をスムーズに進める近道だと思う。今後の人口や財政の状況をわかってもらわないと、市民も各論ばかり見てしまい反対がおこる。全体をわかりやすく市民に伝えることを、我々も一緒にできたらと思っている。

<山本委員>

施設の再配置、適正管理は市民理解が何より大事だ。市民アンケートでは、必要性を見直し見合った数まで減らすという意見が最も多いとのことだが、実際に自分の地域の問題になると違う意見が出てくるのではないか。出前講座は、何か問題が発生した時に行うのか、事前にわかってもらうために行うのか、どのタイミングで行うのか。

<財産管理課長>

要望があれば出向くものであるが、今までのところ、その機会はない。

<山本委員>

この3年間、紛糾するような場面はなかったようだが、適正管理について市民に理解してもらう場面があればいいと思う。この資料はわかりやすく書いてあるので、市民にわかってもらう方法を考えていただきたい。

<木曾委員>

あるものをなくすのは抵抗がある。市議会議員は市民から要望を聞くが、施設を潰せという話しは聞かない。財政状況は厳しくなり、納税者は減るということは事実である。周南市もだが、以前、富士見市にも行ったことがあるが、エキスパートの情熱のある課長がおられた。各課に色々なことを言い、嫌われながらやっていけない限りできないと言っておられた。そういう人がいないと、計画を前に進めるのは難しい。自然に淘汰されるのを待つしかない。早く手を打ったところが、行政として生き残るのではないかと思う。

<財産管理課長>

おっしゃるとおりだ。一番難しいのは庁内の調整だと思う。抵抗勢力をいかに調整するかということではないか。

<木曾委員>

良いことを言うのは市民受けがいいが、本委員会の議員は、嫌なことも、市民に議員としてしっかり言おうという思いを持っている。

<浅田委員>

市民に理解してもらうためには、マンガのようなわかりやすいものが有効だ。亀岡高校の壁にマンガで掲示してある建物が今目立っているが、このようなところへ働きかけるのも一つの方法だ。学校の教材のような物を使い、子どもから大人まで理解してもらえ物を作って広報していくのがいいのではないか。

<財産管理課長>

解体や除却のみを目的としているわけではない。10年先、20年先で、市民ニーズは時代とともに変わっていく。より効率的な形で再編に取り組んでいる。

<木村副委員長>

学校も市営住宅も、長期計画を立て、10年先、20年先を見て進めていかないと大変なことになる。

<福井委員長>

資料の中の、施設の老朽化が進んでいるという表は、一つのポイントだ。亀岡会館、中央公民館は耐震で除却し、これで3%削減した。老朽化した施設が増えていき、今後、必要な施設がなくなって不必要な施設が残っても、10.7%目標達成となってしまうことが心配だ。現在、築20年の施設も、10年経てば築30年になり、築30年以上の施設が60%を超える。そのことを市民に知ってもらわなければならない。知ってもらったうえで、何を選択しましょうかという投げかけをしなければならないと思っている。本当に必要な施設を老朽化したからと潰してしまい、お金がなくて新しい施設が建てられないことが心配だ。

<財産管理課長>

南丹市では、市有地を提供するので民間保育所を運営してもらえないかということで公募している。本市でも、土地の活用方法について提案いただけたところとコンタクトを取っていきたいと思っている。また、市有地を売却し、固定資産税を得られるようにすることも考えている。

<木曾委員>

ここまでの話を聞いて、市の財政状況も含めて将来どのような状況になっていくのか、市民サービスにどのような影響が出てくるかということ、市民に知らせる必要があると思う。その中で、民間の意見も取り入れていこうということになれば上手にかみ合うのではないか。10年先、20年先の市の状況を知らないと、地域の施設は潰してもらっては困る、直してもらわないと困るということにしかない。市民は、市の財政状況は知らない。市民の中には、スタジアムを市が建てると知っている人もいる。財政状況などを、正確に、わかりやすく知らせていかない限り、公共施設の再配置計画を進めるのは難しいことだ。

<福井委員長>

会計管理室の皆さんには、今日は委員会調査に協力いただきお礼を申し上げます。委員会では今後も調査をしながら形を作りたいと思っているので、今後とも協力をお願いします。

(意見交換終了)

(会計管理室退室)

(休 憩)

15:37～15:47

(再 開)

<福井委員長>

財産管理課から話を聞いたが、最終的な委員会テーマの目標は、こうした方がいい
ということ委員会としてまとめるということだと思うので、次どうしたらいいか
の意見を賜りたい。財政課に来てもらって財政見通しを聞いてみたいと思うがどう
か。

—全員了—

4 その他

(1) 部落解放・人権政策確立要求京都府実行委員会第35回大会への参加について
(浅田委員の参加で決定)

(2) 次回の日程について

— 下記のとおり決定 —

日時：8月22日(木) 午後1時30分～

案件：財政の現状と今後の見通しに係る意見交換 他

散会 ～15:50